

文教厚生常任委員会行政視察概要

令和7年10月23日（木）

於 鎌倉市議会 第1委員会室

午前9時30分～10時50分

- 1 調査概要・説明 …………… 鎌倉市教育委員会 教育文化財部、教育指導課長
学びみらい課 担当係長

「GIGAワークブックかまくらについて」

鎌倉市では、ネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報リスク等の情報モラル教育に加え、上手に情報やICTを活用し、情報社会に参画して社会に働きかけるための情報活用について、児童生徒が学校においてワーク形式で学ぶための教材として「GIGAワークブックかまくら」を作成している。

本教材は、一般財団法人LINEみらい財団が中心となり、市内のGIGAスクール構想推進校の小中学校、鎌倉市教育委員会が協力して作成し、令和4年7月に小学校4～6年生向けのスタンダード版、令和5年1月に小学校1～3年生向けのビギナー版、令和5年3月に中学生向けのアドバンスド版が完成した。なお、本教材は市とLINEみらい財団との連携協定に基づき作成されており、市の費用負担はない。

本教材の活用方法については、市のホームページに掲載しているほか、各学校及び児童生徒に貸与しているタブレット端末にもデジタル版として配信し、各学校において総合的な学習の時間や道徳、特別活動の時間等で活用している。また、学活や朝礼等の短時間でも活用している例もある。

学校や保護者からは、児童生徒に貸与されているタブレット端末は遊び道具ではなく、文房具のように使うことが当たり前になった。カメラ機能を使用し撮影する際にも肖像権に配慮する等、基本的なルールが身についた。そのルールがなぜ必要なのかということへの理解が進むことでルールを守るようになった等の評価を得ている一方、社会情勢の変化に対応するため毎年更新する必要がある、更新作業や更新内容の周知が大変であることが課題となっている。

今後については、児童生徒のタブレット端末を活用した主体的な学びを応援するため、他の施策との連携や新たな活用方法についても検討していく。



2 主な質疑応答

問 本事業は市からLINEみらい財団への費用負担はないが、同財団にメリットはあるのか。

答 本事業は市と同財団との協定に基づき費用負担はなく、同財団の実証実験的な部分が大きい。

問 近年問題となっているリチウムイオン電池の発火等のハード面の使用方法の注意事項は盛り込まれているのか。

答 本教材は情報モラル教育に焦点を当てた教材であり、ハード面の取扱いは特に盛り込んではいない。

問 本教材はかなり量が多いが、何時間くらいの授業で網羅できるのか。

答 年間約15時間で終了する内容となっている。時間の取り方は各学校により様々だが、総合的な学習の時間や道徳、特別活動等で活用されている。

問 SNSを使いたいじめの対策についてはどう行っているか。

答 本教材では基本的な情報モラル教育について盛り込んでいるが、いじめやSNS依存等への対策については他の研修等も併せて取り組んでいる。

問 ICT専門の教員の配置及び教員へのタブレット端末の配付について

答 各学校で1名ICT管理担当の教員を指名している。また、タブレット端末については担任を持っている教員だけでなく、管理職、養護教諭、事務職にも市費で貸与している。

問 聴覚障害児をはじめとする障害児への支援方法について

答 聴覚障害児についてはUDトークで意思疎通を図っている。その他の障害についても種別に応じて個別に対応を行っている。

問 本教材の保護者向けの周知等の取組は。

答 本教材は市ホームページに掲載しているほか、各学校及び児童生徒に貸与しているタブレット端末にもデジタル版として配信しているが、保護者に対しても懇談会や市の研修会等を通じて周知を図っている。

問 市と教育委員会との横展開の取組は行っているか。

答 市全体としては行っていないが、各学校によっては通常の授業の中で福祉的な教育も実施している。

問 本事業の将来的なビジョンは。

答 個々に寄り添った教育を行うための時間を効率的にＩＣＴを活用することで捻出するとともに、出来た時間を子供たちの主体的な学びの時間に還元できるよう取り組んでいきたい。また、ＬＴＥを利用した校外学習での活用やＳＯＳアプリを活用した児童生徒の悩みごとの相談等、新たな活用方法についても検討していく。

以 上